

科 目 名	成人看護学概論	単位数	1	時 間 数	30
講 師 名	専任教員	実務経験	有	履修年次	1 年
科目の概要	当科目は、看護の対象となる成人とはどのような存在なのかが分かり、看護の基本的なアプローチについて学ぶ。危機理論・セルフケア理論や自己効力感などの理論についても触れる。また、倫理的判断が求められる場合のアプローチについても考える。				
学 習 目 標	1. 成人はどのような存在かわかる 2. 成人に対する看護のアプローチの基本がわかる				
授 業 計 画	学 習 内 容	授 業 方 法	時間	担当	
	1. 対象の発達の理解と生活 1) 青年期 2) 成人前期 3) 成人中期 4) 成熟期	講義 視聴覚教材 グループワーク	8H	専任 教員	
	2. 成人を取り巻く環境と生活の状況 3. 成人の健康の状況 4. 生活と健康を守り育むシステム	講義 グループワーク	4H		
	5. 大人の学習と行動変容を促すアプローチ 6. 成人看護における倫理 7. ヘルスプロモーションと看護 8. 健康の急激な破綻と回復を支援する看護 1) ボディイメージの変容 9. 慢性病とともに生きる人を支える看護 10. 障害がある人の生活とリハビリテーション 11. 人生最後のときを支える看護	講義 視聴覚教材 グループワーク	17H		
	筆記試験		1H		
評 価 方 法	筆記試験				
テ キ ス ト	統計看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 （医学書院）				
参 考 文 献	服部祥子著 『2000,生涯発達人間論』（医学書院）				
担当教員からのメッセージ 成人期の方を色々な方法で理解します。近くの人を観察しましょう。自分たちも成人期の入り口に立っていることを自覚し、自己実現とよりよい生活に向けて看護理論を適応しましょう。					

科 目 名	生命危機状況にある対象の看護	単位数	1	時 間 数	30	
講 師 名	専任教員	実務経験	有	履修年次	2 年	
科目の概要	この科目では、まず手術を受ける対象の、看護と医療安全を理解する。そして、胃がんを発症した対象の周手術期の看護を中心に学習する。また、生命の危機状況にある対象の看護について、循環器系では心筋梗塞を発症した対象を例に取り学習する。					
学 習 目 標	1. 急性期にある対象の看護が理解できる 2. 手術を受ける対象の看護が理解できる 3. 胃癌の患者の周手術期における看護が理解できる 4. 心筋梗塞を発症した患者の回復過程がわかり、必要な看護がわかる					
授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当		
	1. 急性期とは 2. 周手術期の看護 1) 手術侵襲と生体反応 2) 術前看護：全身状態の管理、不安の軽減 3) 手術室での看護：麻酔、体位、手術方法 4) 術後の看護：術後合併症、疼痛管理など 3. 胃がん患者の周手術期の看護 1) 胃の解剖生理と胃がんの病態 2) 事例をもとに看護を考える	事前小テスト 講義 グループワーク	1H 2H 2H 2H 3H 2H 6H	専任 教員		
	筆記試験①	試験	1H			
	1. 心筋梗塞を発症した患者の看護 1) 心筋梗塞を発症した患者の状況と観察 2) 心筋梗塞を発症した患者の治療と看護 SBAR を使った観察・援助後の報告 3) 心臓リハビリテーションにおける看護	事前小テスト グループワーク 講義	3H 3H 2H 2H			
	筆記試験②	試験	1H			
	評 価 方 法	① 周手術期・胃がん：事前小テスト 5点+筆記試験 55点＝60点 ② 心筋梗塞				

科 目 名	障害の受容過程にある対象の看護	単位数	1	時 間 数	30
講 師 名	専任教員	実務経験	有	履修年次	2 年
科目の概要	この科目では、生活行動に障害のある対象では脊髄損傷患者、ボディイメージの変容を余儀なくされた対象では人工肛門を造設した患者に焦点を当て、それぞれの疾患の病態と、急性期から回復過程までの看護と障害を受容する過程を学ぶ。				
学 習 目 標	1. 生活行動に障害のある対象の看護が理解できる 2. ボディイメージの変容を余儀なくされた対象の看護が理解できる				
授 業 計 画	学習内容		授業方法	時間	担当
	1. 脊髄損傷患者の経過と看護 1)急性期 脊髄ショック期の管理、脊髄損傷の安静と固定、損傷高位と固定、消化器症状、過高熱、褥瘡予防、深部静脈血栓の予防、精神的衝撃		講義	2H	専任 教員
	2)回復期から維持期 排尿管理、排便ケア、自律神経障害、関節拘縮予防、生活動作の査定、リハビリテーション、精神的支持、患者や家族への指導		講義 動画視聴	2H 1H	
	3)入院中から退院までの看護について (1)事例紹介 (2)事例検討 (3)まとめ		講義 個人ワーク グループワーク	2H 3H 4H	
	筆記試験①		試験	1H	
	1. ボディイメージの変容を余儀なくされた対象の看護 1)ボディイメージの変容とは 2)消化管の構造と機能		講義 グループワーク 動画視聴	3H	
	3)消化管疾患の病態 4)人工肛門造設を必要とする疾患と術式		講義	6H	
	5)人工肛門造設術の術前・術後の看護		講義・事例		
	6)ストーマ装具交換のセルフケア指導 7) ストーマケアの実際 (1)パウチの貼付 (2)装具交換、観察点		講義・演習 グループワーク	3H	
	8) 人工肛門造設術後の合併症と生活指導		事例	2H	
	筆記試験②		試験	1H	
評 価 方 法	筆記試験 1. 生活行動に障害のある対象の看護 50 点 2. ボディイメージの変容を余儀なくされた対象の看護 50 点				
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5]消化器 [10]運動器 (医学書院)				
参 考 文 献	病気がみえる vol.11 運動器・整形外科				
担当教員からメッセージ 障害を負うことやボディイメージの変容によって、長年培ってきた生活や自己に対する認識を組み立て直さねばならない患者の苦労や辛さは想像以上です。障害を受容するプロセスを知り、心理的段階に応じた必要な看護を実践できる力を培いましょう。					

科 目 名	生涯にわたり疾病のコントロールを 必要とする対象の看護	単位数	1	時 間 数	30
講 師 名	専任教員	実務経験	有	履修年次	2 年
科目の概要	成人期で、生涯にわたり疾病のコントロールを必要とする対象の看護を学ぶ。消化器系では肝硬変患者、腎泌尿器系では腎不全患者の事例をもとに、慢性期において QOL を維持するために必要な看護の方法を学ぶ。				
学 習 目 標	1. 慢性の病を持つ対象の看護がわかる 2. 肝硬変患者の看護がわかる 3. 慢性腎不全患者の看護がわかる				
授 業 計 画	学習内容		授業方法	時間	担当
	1. 慢性疾患の特性と看護 1) 慢性病を抱えながら生きるとは		講義	1H	専任 教員
	2. 肝硬変患者の看護 1) 肝臓の解剖・病態の復習 復習：病態マップ作成		講義 GW	2H	
	3 代謝性肝硬変、非代謝性肝硬変の看護 1) 安静療法・薬物療法・食事療法を受けている患者の看護		講義 GW	2H	
	2) 肝硬変によりおこる症状に対する看護			3H	
	3) 患者・家族に対する看護			1H	
	4) 事例を用いて肝硬変の看護を考える			4H	
	筆記試験 ①			1H	
	まとめ			1H	
	4. 慢性腎不全患者の看護 1) 慢性腎不全の病態・症状・治療		講義 GW	2H	
	2) 症状・食事療法・薬物療法に対する看護		講義 GW	2H	
	3) 検査を受ける患者の看護 4) 腎移植を受ける患者の看護		講義 グループワーク	2H	
	5) 透析療法を受ける患者の看護 ①血液透析 ②腹膜透析		講義 視覚教材	3H	
	6) 透析を受けながら生活する者の立場から		講義	1H	
	7) 事例をもとに慢性腎不全の看護を考える			3H	
	筆記試験 ②			1H	
	まとめ		講義	1H	
評 価 方 法	筆記試験 ①肝硬変の看護 50 点 ②腎不全の看護 50 点				
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5] 消化器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8] 腎・泌尿器 (医学書院)				
参 考 文 献	これからの腎不全看護 個別的なケアを実現するための意思決定支援 インターメディカ 看護実践に活かす中範囲理論 「病みの軌跡モデル」 メジカルフレンド				
担当教員からのメッセージ 1 年次に履修した看護形態機能論・病態論の知識の事前課題を課します。復習して臨んでください。					

科 目 名	治療困難な終末期にある対象の看護	単位数	1	時 間 数	30
講 師 名	専任教員 病院看護師	実務経験	有	履修年次	2 年
科目の概要	終末期にある対象の看護について学ぶ。身体的苦痛に加えて、心理的苦痛を伴う患者に対し、患者、家族のＱＯＬの充実と、生きることを支える援助である緩和ケアの知識と技術を学ぶ。さらに、生命を支える医療機器の管理の必要性についても学ぶ。				
学 習 目 標	1. 終末期にある対象の看護の目的と、苦痛緩和の方法、家族への援助がわかる。 2. 生命を支える医療機器の取り扱いと、管理方法がわかる。				
授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 終末期の看護とは 1) がん患者が抱える苦痛と緩和ケア ①がん患者の臨床経過 ②全人的苦痛とQOL ③緩和ケアの定義 ④早期からの緩和ケア 2. 終末期にある患者及び緩和を必要とする患者と家族への看護 1) 緩和ケアにおける看護師の役割 2) 身体症状のマネジメントの基本的考え ・疼痛コントロール・麻薬の管理、倦怠感、食欲不振 4) 全人的苦痛のアセスメント、看護 5) がん患者の社会参加への支援 ・社会的苦痛：就労・学支援、経済的支援 6) 苦痛緩和と意思決定 7) 家族ケア 8) 乳癌患者の治療に伴う看護 ①乳がんの解剖・病態復習 ②乳がん患者の事例から緩和ケア、終末期看護を考える	講義 視聴覚教材 グループワーク	12H	専任教員	
	5. 終末期患者への援助 6. 終末期までの一連にかかわる多職種連携	講義	2H	病院 看護師	
	7. 肺癌患者の治療に伴う看護 8. 呼吸不全の治療に伴う看護 9. 人工呼吸器の適応と理解	講義	10H		
	10. 安楽な呼吸の援助 1) 吸入(酸素、薬物)の方法 2) 体位ドレナージ 3) 吸引の方法 4) 酸素ポンベの取り扱い	講義 演習	1H 4H	専任教員	
評 価 方 法	筆記試験			1H	
テ キ ス ト	・系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2]呼吸器 [9]女性生殖器（医学書院） ・ナーシンググラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア （メディカ出版） ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ （医学書院）				
参 考 文 献	・病気が見える vol. 9 婦人科・乳腺外科 ・病気が見える vol. 4 呼吸器				
担当教員からのメッセージ 対象の苦痛緩和と、最後の時まで「生きること」を支える看護と一緒に考えましょう。					

科 目 名	健康障害のある成人の事例展開	単位数	1	時 間 数	30
講 師 名	専任教員 病院看護師	実務経験	有	履修年次	2 年
科目の概要	成人期の慢性疾患を抱えた対象の看護を学ぶ。この科目では、代謝系の糖尿病をとりあげ、成人期の特徴を踏まえ、自己管理ができるための、看護の方法を学ぶ。事例を読み対象の問題を明確にし、看護計画を立案する				
学 習 目 標	1. 糖尿病の病態を理解できる 2. 成人期の糖尿病患者の看護計画を立案できる 3. 看護計画を発表できる 4. 血糖採血の実際がわかる				
授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 糖尿病の病態を理解できる 1) 糖尿病の病態生理 2) 糖尿病の検査 3) 糖尿病の治療	TBL グループワークで 関連図作成 発表	1H 2H 1H	専任 教員	
	2. 成人期の糖尿病患者の看護計画を立案できる 3. 看護計画を発表できる	個人ワーク グループワーク グループ面談 発表会 個人面談	3H 13H 3H 2H		
	4. 血糖採血の実際がわかる 血糖測定、インシュリン注射 まとめ	講義 演習 講義	1H 2H 1H	病院 看護師	
評 価 方 法	基礎知識の確認—1 について TBL：15 点、関連図：10 点 提出課題の評価：20 点 グループワーク 10 点 筆記試験 45 点			1H	
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6] 内分泌・代謝 （医学書院）				
参考文献	斎藤宜彦著「ナースのための糖尿病レクチャー」（文光堂） 西崎統著 「JJN スペシャル新・糖尿病ナースング」（医学書院） 病気がみえる③ 糖尿病・代謝・内分泌 （メディックメディア）				
担当教員からのメッセージ 個人で糖尿病の理解を深めるとともに、事例の対象の心理過程をグループで十分ディスカッションし、看護計画に反映させられることを目指してください。 糖尿病の患者を、受け持つことが多いです。メカニズムなど復習しておくことが自分の力になります。 発表会では、学びの共有ですので積極的に参加していきましょう。 血糖測定の演習があります。基本的な知識、技術を身につけて実習で実践できるようにしていきます。					